

5・12～14 沖縄へ！

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2012年4月23日

No 21

Tel 050-3036-6464

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

4・19全国学生集会での福大アピール！

坂野書記長アピール

まず冒頭、弾圧に対しては、とにかく一致団結して闘おうじゃないかと訴えたいと思います。

一つ目に弾圧っていうのはなによりも団結を破壊すると、一人の学生を潰して見せしめにして、立ち上がらないようにすると、これが核心点なわけです。だからそれに対しては、一糸乱れぬ団結を固める、これが最大の反撃だろうと思います。

二つ目に、やっぱり弾圧っていうのは敵の恐怖なんだと、本当にこの弾圧をうち破った時に、私たちの運動は前進できる、このことを福島大の闘いでつかんできました。

ある学生は教務課に「全学連とつきあってんのか」「あいつらとつきあってるとダメになるぞ」と恫喝をされたり、あるいは授業で「あいつらは過激派だ」「あいつらとつきあったら人生無茶苦茶にされるぞ」と言われるということがあったんですけど、彼はその授業でマルクスが批判されてたんですけど、「じゃああなたはマルクスのことを知ってるんですか」と追及した。そうやって団結を固めた時に、運動もドンドン前進してるし、弾圧は運動の前進のひとつの糧になるということの一つ教訓にして、4・19弾圧をぶち破ろう！

福大はあらゆる困難をぶち破って、いま前進しています。何よりも最大の敵は、脱原発の仮面を付けて原発反対運動に敵対してくる清水修二であると考えてます。

6月の福島大全国集会に向けて、3つほど言いたい。

一つは、過激派キャンペーンを粉砕するんだと。全国の学生に集まってもらって、うちの怒りは正義なんだってことを福島から訴えていく。「フクシマの怒り」を全国に発信することによって、再稼働を止めて全原発を廃炉にしていく。この社会を根底からひっくり返していく。そういう闘いをしていきたい。

二つに、7・16の10万人集会、これに向かって「核と人類は相容れない」んだということを福島現地から発信していく。

三つに、やはりこの中で二ケタの学生活動家を作り出して、学生自治会の建設・奪取に本格的に挑戦していく。こういう闘いを6月の全国集会でやりたいと思っています。皆さんよろしくお願いします。

福大2年生アピール

福大でこれまで言われてきたこと(弾圧)は、本当に全く嘘偽りないです。過剰表現の要素もない。俺はそれなりに腹



決めましたが、他の人はどうかって言うとやっぱり結局、停学・退学・事情聴取をされたら、俺だって今でも怖いんです。じゃあどうするかって考えたら、潰してしまえばいいんだって思います。今日、文科省に行って色々(福大での弾圧について)言いましたが、文科省の役人の一人が「ひどいな」って呟いたんですよ。大学がいかにおかしいかっていうことを伝えて、やっぱりおかしいんだって状態にもってっちゃえば、みんないとも簡単に原発反対だっている人たちは声かきつけてくれるって信じてますんで、何とかそういう風にできないかなって思ってます。

我々は旗で赤色掲げてます。警察だって、赤色の旗を掲げてます。この赤の違いは何かって思うんですけど、我々が掲げるのは怒りの炎の赤なんですよ。あいつらは暴力でもって流す血の赤なんですよ。そんな赤に負けてはいられません。これからの頑張るって参りますのでよろしくお願いします。

福大3年生アピール

本日、デモによって我々の仲間がひとり不当に逮捕されるという事態が起きました。僕はこれまで3度デモに参加したことがあるんですが、参加した人が逮捕されるというのは初めてのことで、正直驚いています。この逮捕は本当に、不当逮捕としか言いようがありません。原発推進者が未だに一人も逮捕されない一方で、反対する人が逮捕されるというのはどういうことなんでしょうか。警察はいったい何の為に存在しているのでしょうか。

我々は今回の逮捕を絶対に許しちゃいけないと思います。一刻も早く、逮捕された仲間を奪還し、団結を強め、我々に敵対している人たち打倒へ進んでいきたいと思っています。

「20ミリシーベルト基準」撤回！ 文部科学省省を徹底追及！

全学連は4・19法大デモを圧倒的にぶち抜き、福島大生、そして『子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク』のお母さんたちとともに、文部科学省に申し入れ行動を行いました！ 昨年の4・19に文科省が出した「20ミリシーベルト基準」の撤回を求めました。文部科学省への申し入れは、昨年10月28日にも行い、2度目になります。

まずはじめに、全学連の斎藤委員長が、①「20ミリシーベルト基準」の撤回と学生の教育環境の保障、②国立大学法人法の撤廃、③原子力予算を解体し学生の教育を受ける権利を保障するよう求めました。文科省はこれに対し、「昨年8月26日に『20ミリシーベルト』は事実上撤回している」と回答。しかし、現実には昨年12月15日に政府の「低線量被曝のリスク管理に関するワーキンググループ報告書」でも「20ミリシーベルト基準」は採用され、それに基づいて4月から福島県の警戒区域が再編されました。「20ミリシーベルト以下なら安全だ」という帰還キャンペーンが行われています。責任を放棄する文科省に福島大生を先頭に怒りが叩きつけられました。さらに文科省は、「国立大学法人化は『学問の自由』の保障



4月19日、文科省前にて

の確保につながった」、「学生の教育を受ける権利は『奨学金』で保障されている」と居直りました。

文科省は、「大学法人の要望があればキャンパス移転などを進める」と、学生の声をまったく聞こうとしませんでした。福島大学では、「原発反対」の声をあげたら当局から呼び出され、法政大学でも原発反対のビラを禁圧しています。文科省こそが、このような大学のあり方をつくってきた張本人です。福大生が「あなたたちは命よりも金なのか」、「俺たちの命を何だと思っているのか！」と激しく追及すると、「学生の声は今のところ聞こえてきません」とあたかも学生が今の現状に「満足」しているかのような対応。ふざけるな！

福大生は、「キャンパスで原発反対と言ったら『過激派』のレッテルばりをされ、当局に呼び出されてる。声をあげられない状況が作りだされている！」と弾劾しました。佐藤幸子さんも「子どもたちや学生の未来を本気で考えてください」と訴えました。

4・19法大デモ×対文科省行動は、全国学生とりわけ法大生と福大生が先頭に立って大勝利しました。原発をなくす力は、学生の行動にこそある！ 法大デモでの学友A君の不当逮捕は、そのことを示しています。全国学生の力でA君を早期奪還しよう！ さらなる学生の行動を巻き起こそう！



4月21日、動労千葉主催で「尼崎事故7周年弾劾」を掲げた国鉄集会&デモが現地で380名の結集で闘われ、全学連も合流！

5・12～14沖縄闘争

■5/12(土)

那覇・国際通りデモ 16時県庁前に集合
「復帰」40年沖縄集会 18時～那覇市民会館

■5/13(日)

基地見学

全国学生交流集会

■5/14(月)

辺野古の浜見学、名護市内デモ

